

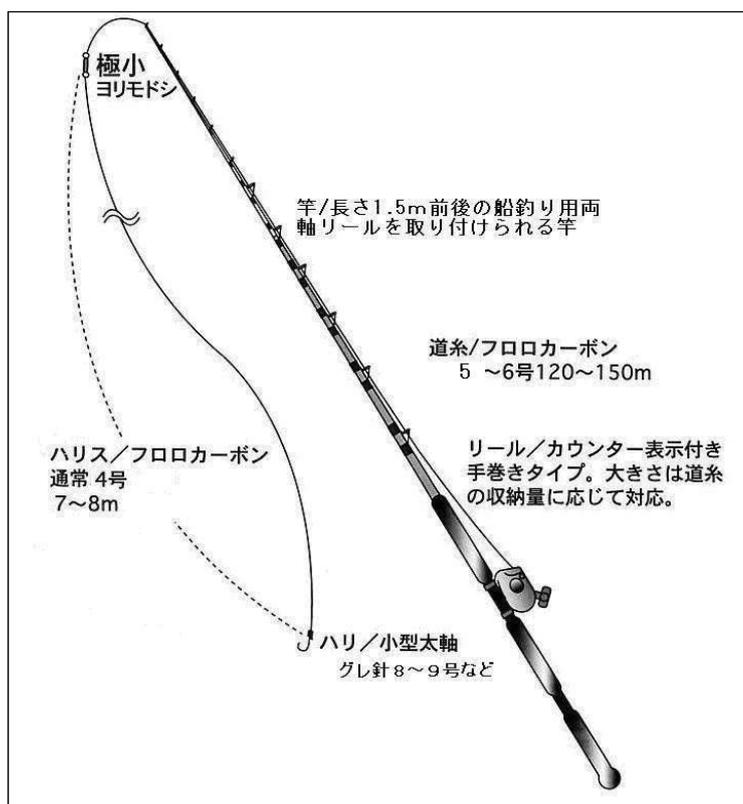
＜ LIPを使った竿マキコボシ釣りのご案内 ＞

竿マキコボシ釣りは従来からの手釣りのマキコボシ釣りの難しさを竿とリールを使うことで解決しました。また従来から使用されてきた自然石や瓦に代わるものとしてLIP(ローインパクトプレート)と呼ばれる海中で崩れて砂に戻る四角いプレートを使います。自然石では難しかったコマセの巻き込みがLIPを使うことで誰でも簡単にできるようになりました。また、様々なコマセのパターン作りができるようになったため、釣り人自身が自在に棚をコントロールして狙った魚を掛けるという新しい楽しみが生まれました。どうか今までにない抜群の釣果と奥の深い釣趣をお楽しみください。

道具立てはいたって簡単です。

右の図に示したように短めの竿に比重の重いフロロカーボンの道糸を巻きいた中型の両軸リールを取り付けます。その先に極小のより戻しを介して同じくフロロカーボンのハリスを結んでその先に針を一本結べば完了です。これに底立ちを取るための重りとコマセとLIPがあれば釣りを始められます。

餌はアミエビを1キロ半～2キロ、オキアミの付け餌のブロックをひとつ買えば一日の釣りでは十分です。



左がアミエビの900グラムの塊、これを通常は2個買えば一日の釣りでは十分。
青物が回っている時は多少多めにすると良い。

オキアミの付け餌はLLサイズが使いやすい。



LIPの一日の使用量の目安は50～60枚程度。お店で販売しているLIPはひと箱70枚入りの使いきりパックです。割れのための予備が2枚余分に入っています。

<手順1> 底立ちを取る

竿マキコボシ釣りでは常に底を基準にして棚を設定します。釣り場で道具の準備ができたらまず針の先に錘を付けて底まで沈めてください。底に着いたら軽く糸を張ってからリールの底からカウンター(下のカウンター)をゼロにして準備完了です。

基本的な釣り方(水深30Mでの例)

①カウンターをリセット



25号程度の錘を竿先にぶら下げて水面につける。メインカウンターをリセット。上の数字を00.0mにする。

②底を記憶



クラッチを切って糸を出し海底まで沈める。底に着いたら糸を張って底からカウンターをリセット。下の小さな数字を00.0mにする。

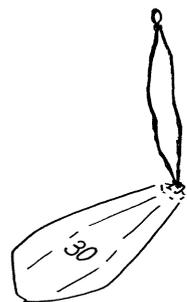
③餌をつける



リールで糸を巻き取り錘が水面から10mまできたら巻くのを止めて手で手繰る。手繰った糸は水面に流しておく糸がらみを防げる。錘を外したらオキアミを針に刺し通す。

④LIPへの巻き込み

連続写真を参照



底立ちを取るために使う錘は針に付けたときに外れてしまわないように錘に針を通したあとで針先に消しゴムの小片を付けたリチチ環を付けて使うと便利です。

<手順 2> LIPに餌を巻き込む



①なるべく真っ直ぐなオキアミを選んで尻尾を切る。



② LIPの上に針の付いた付け餌(左)ともう一匹オキアミを添わせる。(針カラミ防止のため)



③ オキアミの上にひとつまみのアメエビを置いてハリスで7~8回しっかり巻き締める



④ さらにひとつまみアメエビを置いて巻き締める。これを5回繰り返す

<手順 3> LIPを投入

餌を巻き込んだLIPを静かに海面に放つとゆらゆらと揺れながら沈んでいきます。糸を張ってしまうとクルクルと巻き解けてしまいますので糸を送り出さなければなりません。左手でリールの糸が出過ぎて絡まないように押さえながら(サミングといいます)右手で糸を引き出していきます。

⑥ 糸送りストップ～コマセ放出～底まで糸を送って魚信を待つ

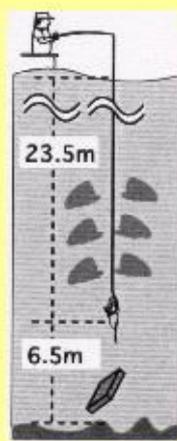
⑤ 投入、糸送り



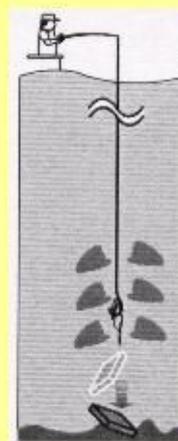
付け餌、コマセを巻き込んだLIPを静かに沈める。糸を張るとLIPが回転してしまうのでスムーズに糸を送りこむ。



下のカウンターが6.5mになったところで糸送りを止める。LIPが回転を始めた振動が竿先に伝わってくる。



LIPはコマセを撒き散らしながら巻き解けていく。LIPが完全に巻き解けると付け餌が海底から6.5mの所に漂い、LIPは海底へ。



付け餌に向かって上からコマセが降りかかってくる。これに誘われて鯛が寄ってきて付け餌を食う。下のカウンターがゼロになるまで糸を送って餌を沈めて鯛のいる棚をさぐってもよい。



<手順 4> セット棚で糸送りを止める

「セット棚」というのは最初に付け餌がLIPから離れる底からの棚のことを言います。状況にもよりますが大抵の場合6.5メートル位をセット棚に設定すると良いでしょう。

リールの下のカウンターの数字が底からの距離ですからその数字が6.5になった所で糸送りをやめましょう。程なく糸が張って竿先にLIPが回転する「カタカタ」という振動が伝わってきます。この時にLIPはコマセを撒き散らしながら巻き解けているのです。竿先の振動が止まった時に付け餌はLIPを離れ底から6.5mの海中に放出されます。そこに上からコマセが降り注いでくるのです。

<手順 5> 糸を送って餌を落とし込む

針の付いた餌をセット棚でセットしてから1分ほど待っても当たらないようでしたらリールのクラッチを切ってゆっくり糸を出して付け餌を落とし込み始めてください。送る糸のスピードはオキアミの沈むスピードに合わせてるといいでしょう。(オキアミを一匹海面に落として沈む速さを確認してください)

底からのカウンターがゼロになったら巻き上げて再投入して下さい。

※糸が斜めに入る場合は潮が動いている可能性があります。その際はセット後それほど待たずに糸を送り始めて結構です。

※ドラグは糸を手で強く引くとスムーズに出る程度の設定にして下さい。

<手順 6> 当たりと合わせ

当たりはいきなり竿が水しぶきを上げて海面に突き刺さります。糸を送っている時はスプールが勢いよく逆転し始めます。当たりがあったらそのままの状態でも5回ほどリールのハンドルを巻いて糸を十分に張ってから竿に重みを乗せるような感じで合わせて下さい。

いきなり竿を跳ね上げると道糸に伸びがあるために合わせが利かず巻き上げる途中で外れてしまいます。

鯛は底を15メートルほど切ると浮き袋が膨らんで暴れなくなります。それまでは無理せず慎重に巻き上げましょう。



釣り方などでご不明の点がありましたら遠慮なくお問い合わせ下さい。

easyride613@yahoo.co.jp 増淵まで